

沖縄社会は日本財産

AMDA活動報告

救える命があれば

どういふでも

□5□

菅波 茂



血縁共同体

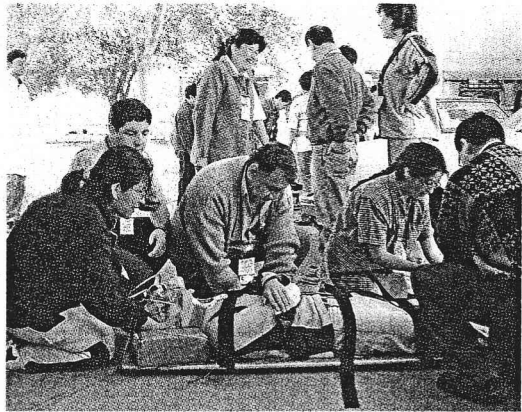
る難民や災害による被災者の救援活動に特化している。

「なぜAMDAは沖縄に注目するのか」。沖縄は日本で唯一の血縁共同体社会であるから。それ故に日本の公共財産である。AMDA多国籍医師団を構成する多くの支部と活動の対象である発展途上国は血縁共同体社会である。真にAMDAが世界平和の実現を願うなら、血縁共同体社会の掟・慣習の熟知が不可欠である。

AMDA沖縄支部は中南米における災害救援活動には必ず医療スタッフを派遣してくれた。一九九八年のハリケーン「ミッチー」、二〇〇一年のエルサルバドル大地震等である。近き他人より遠い親せき。沖縄県系人いる所に災害あれば、必ず医療スタッフを派遣する。否、しなければならぬ。掟の世界である。

共同体において冠婚葬祭は不文律の慣習である。特に、死者に対する儀礼が崩れる時に共同体は崩壊する。「村八分」。恐ろしい言葉である。存在の無視である。それでも残りの二分、葬式と消火のつながりは残る。喜びは嫉妬を生む。連

掟・慣習の熟知が不可欠



医師、救急隊員らを対象に開かれている救急救命医（士）研修プログラムⅡ2002年10月、ボリビア

「AMDA多国籍医師団は必ず来る」。血縁共同体における伝説にしなければならぬ。そのためにも、各国におけるキーパーソンが不可欠である。例えば、今年惜しまれつつ亡くなったAMDAボリビア支部長のフォアニアニニ医師。彼は一九九七年に「救急救命医（士）研修プログラム」を開始し、事故現場から病院内まで、外傷患者に對する一貫した初期対応ケア・治療技術の向上に寄与し高い評価を得ている。そして、彼は中南米における災害救援活動には必ずボリビアからチ

帯感ほできにくい。しかし、死の悲しみは共有でき、連帯感を確実に生み、血縁共同体社会において、必要とされれば必ず行かなければならぬ。義理欠きは「村八分」への片道切符になる可能性がある。「困った時はお互

ムを派遣してくれた。AMDA多国籍医師団の伝説化のためのさらなる構想は一方国につき一つのAMDA支部を確立、一つの医科大学と医療スタッフ派遣協定を結び、現地日本人会が積み立てる緊急救援基金をセツトすることである。

今後の課題は引き続き血縁共同体社会における不文律の慣習の学習と経験を重ねることである。沖縄平和賞の受賞により沖縄とパートナーシップを共有する意義と重みをかみしめている。皆様のご理解とご支援をお願いしたい。

AMDA（アジア医師連絡協議会）理事長

この連載は毎月第四日曜日に掲載します。